

(様式1)

平成28年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成29年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成28年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成29年3月

教育長 森近 悦治

項目	実施結果
1 人口減少に歯止めをかける徹底戦略 ◇幸福度日本一福井へ 移住・定住戦略【部局連携】 ○地場産業の宝庫・福井でチャレンジの夢ひらく ・県内企業と連携し、普通科系高校1年生600名がコースに分かれて県内の職場の魅力を知る機会を新たに設け、大学卒業後にふるさと福井で働く意識を高めます。	〔成果等〕 目標を達成しました。 普通科高校1年生720名が県内企業26社を訪問し、ふるさと福井の職業や企業について学ぶとともに、県外の大学から福井に戻って就職した若手社員と意見交換を行うなど、県内企業への関心を高めました。
2 福井から人材育成 ◇「ふるさと」を思うグローバル人材教育【部局連携】 ○「ふるさと教育」の充実 ・福井にゆかりのある100人の先人の特徴的な生き方を学ぶ教材について、全中学校・高校の授業等における活用を始めます。 ・福井ゆかりの百人一首などを取り入れた県独自教材「古典音読・暗唱ノート(初版)」の全小・中学校における活用を始め、小・中学生が古典に触れる機会を増やします。 ・白川静氏没後10年を記念し、白川文字学の全国唯一の展示発信の拠点である「白川文字学の室」を10月にリニューアルするとともに、博士ゆかりの著名人によるフォーラム等を開催します。	〔成果等〕 目標を達成しました。 県独自教材「ふるさと福井の先人100人」を県内の中学生・高校生全員に配付し、道徳やホームルームにおいて活用し、生徒たちは福井にゆかりのある先人から子どもの頃に抱いた夢の実現に向けて努力した姿、悩みや失敗を乗り越えていく姿を学びました。 さらに、取り上げる先人を追加するとともに、学校における教材に留まらず、書籍化して3月に出版し、広く一般の方々も入手できるようにしました。 福井ゆかりの作品を取り入れた県独自教材「古典音読・暗唱ノート」の全ての小・中学校における活用を始め、授業や朝の会などにおいて、子どもたちが古典に触れる機会を増やし、小・中学校4校において授業公開を実施しました。 さらに、来年度から活用するため、内容を充実した増補版を作成しました。 白川博士の自筆原稿や書簡等のほか、立命館大学から資料の寄贈・寄託を受け、書齋を復元するなど、展示資料を充実し、10月に「白川文字学の室」をリニューアルオープンしました。 あわせて、作家の宮城谷昌光氏や津崎史氏などによる白川静博士没後10年記念フォーラムを開催し、全国から約500名が参加しました。フォーラム終了後、全国の漢字研究グループ等による交流会を実施し、白川文字学を普及しました。

(様式1)

項 目	実 施 結 果
<p>・立命館大学と連携し、資料の相互活用や共同研究等を行うとともに、白川文字学を活用した学校での漢字教育を推進するため、漢字指導者を養成します。(平成27年度 累計200人)</p> <p style="text-align: center;">漢字指導者数 累計260人</p> <p>・新たに教師や司書が薦めるふるさと文学、古典や名作を県内全小・中学校に巡回し、学校・図書館・家庭が一体となった県民の読書活動を推進します。</p> <p>・本県ゆかりの企業経営者など「ふるさと先生」による授業を全ての高校に拡大していきます。 (平成27年度 21校)</p> <p>「ふるさと先生」による特別授業実施校 23校</p>	<p>11月に立命館小学校の生徒に授業を実践し、立命館中学校・福井の教員が立命館小学校の生徒に白川文字学を活用した授業を実践するとともに、漢字指導者養成のための「白川文字学ゼミ」を立命館大学教授と連携して実施しました。</p> <p style="text-align: center;">漢字指導者 63人増 累計 263人</p> <p>県内全ての小・中学校において年間2冊の図書巡回を始め、授業において巡回図書を教材として活用するとともに、一斉読書や感想の交流、読み聞かせなどを行いました。また、親子読書や図書館の利用を促進しました。</p> <p>本県ゆかりの企業経営者等15人が先生となり、25高校において、国際的な挑戦、夢の実現、リーダーとしての役割などについて授業を行い、高校生が将来の福井や自分の生き方を考える機会を拡充しました。</p> <p style="text-align: center;">「ふるさと先生」実施校 25校</p>

(様式1)

項 目	実 施 結 果
<p>○「使える」外国語教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使える英語の力を育成するため、校内スピーキング評価と外部検定を活用します。 <p>英検3級相当以上を取得した中学生 (平成27年度 42%) 45%</p> <p>英検準2級相当以上を取得した高校生 (平成27年度 42%) 45%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学・高校の英語教員が外部検定試験を活用し、英語力の向上を図ります。 ・小学校教員を対象にNHK語学番組を活用した研修会を行います。 ・中学校において、地域の観光地などふるさと福井のよさを英語で表現したPRカードを作成し、修学旅行等で国内外へ発信します。 ・ALTに対し、経験のあるALTによる公開授業、日本人教員による日本語講座を実施するとともに、中学校の生徒との交流機会の拡充を進め、指導力を高めます。 ・高校と大学が連携して中国語や中国経済等の授業を行うなど、中国語教育を進めます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>全ての中学校・高校において、定期試験等に合わせて校内でのスピーキングの評価を行いました。</p> <p>また、英語の外部検定受検を支援し、中学3年生の約9割にあたる7,255人が実用英語検定、GTECを受検するとともに、高校2年生の約5割となる3,656人が英検、全商英検、GTECを受検しました。</p> <p>英検3級相当以上を取得した中学生 47%</p> <p>英検準2級相当以上を取得した高校生 45%</p> <p>英検準1級相当以上の英語力を持つ教員の割合は全国トップレベルであり、中学校では56%、高校では86%となりました。さらに、小学校教員34人が外部検定試験を受検するなど、英語力の向上に努めました。</p> <p>小学校教員を対象に、発音指導法やNHK語学番組活用方法の研修を実施し、396人が参加しました。また、全ての小学校教員が語学講座を活用した自主的な学習を進めています。</p> <p>全中学校において、ふるさとのPRカード等を活用し、ALTなどにふるさとを紹介しました。また、修学旅行の際に白川文字学を英語でアピールする活動などを実施しました。</p> <p>中学校・高校の全ての英語ALT102人が公開授業および授業研究を実施しました。</p> <p>さらに、新たに来日したALT44人を対象として、日本語のコミュニケーション能力向上のための教材を作成し、日本語講座を3回開催しました。</p> <p>県立大学の教授や学生を足羽高校に招き、出前授業や交流会を実施しました。また、高校生が留学生と交流するなど、高校と大学が連携した中国語教育を進めました。</p> <p>さらに、国語などの教員183人が中国語の発音や中国文化を学ぶ研修会に参加し、授業に活用しました。</p>

(様式1)

項 目	実 施 結 果
<p>○福井から世界に挑戦</p> <p>・OECDイノベーションスクールによる海外高校との協働学習、県内外の高校生によるフィールドワークなど国際的な人材づくりを進めるとともに、サイエンスや国際に関する新学科の設置を検討します。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>シンガポールや和歌山県の高校との環境・エネルギーをテーマにした協働研究や地域の課題に関する現地調査など、高校生が課題をもとに解決に向けた提案・発表を進めました。8月に東京での国際会議において成果を発表します。</p> <p>また、新学科の設置については、高校再編と合わせ、引き続き検討を進めます。</p>
<p>◇「福井型18年教育」の進化 【部局連携】</p> <p>○教育振興基本計画に基づく施策の推進</p> <p>・知事と教育委員会による総合教育会議を開催し、教育大綱および教育振興基本計画に基づく施策を着実に実行します。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>今年度の第1回総合教育会議では、ふるさと教育や高校生の学力向上、教育研究所の機能強化など平成28年度の主な施策について協議しました。</p> <p>第2回総合教育会議では、小学校の英語教科化、芸術教育、学校業務の効率化などを協議し、教育大綱および教育振興基本計画に基づく施策を着実に進めています。</p>
<p>○幼児教育の充実</p> <p>・5歳児から小学校1年生をつなぐ「福井県保幼小接続カリキュラム」を全ての小学校区で実践し、市町幼児教育アドバイザー、園内リーダーを養成します。</p> <p>(平成27年度 市町幼児教育アドバイザー 累計29人 園内リーダー 累計148人)</p> <p>市町幼児教育アドバイザー 累計46人</p> <p>園内リーダー 累計248人</p>	<p>〔成果等〕 目標を上回って達成しました。</p> <p>子どもたちの「学びに向かう力」を育成するため、市町において域内の幼児教育を推進する人材を育成する「市町幼児教育アドバイザー養成研修」、園内研修を活性化し園の中核となる人材を育成する「園内リーダー養成研修」を昨年度に引き続き実施しました。</p> <p>公私園種の枠を越えた合同研修を行い、研修の集大成として、12月に幼児教育フォーラム(721人参加)を開催し、成果を発表するとともに、市町幼児教育アドバイザー32人、園内リーダー159人を認定しました。</p> <p>市町幼児教育アドバイザー 32人増 累計 61人</p> <p>園内リーダー 159人増 累計 307人</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○「学力・体力」に加え社会参加を促進 ・地域人材のコーディネート体制を新たに整備し、児童・生徒が地域の人々とともに、自ら企画・提案する体験学習を全ての小・中学校に拡大していきます。</p> <p>提案型の体験学習を実施する小・中学校 28校</p> <p>・県立高校の教員に主権者教育研修会を実施します。生徒に対しては、副教材等を活用した学習を充実し、主権者としての自覚を促すとともに判断力および意思決定力を育成します。</p> <p>・高校の生徒会が地域貢献活動の情報を収集して校内において周知し、参加を促進する仕組みを整備します。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>小・中学校のモデル校28校において、特産品を活かした商品開発や修学旅行先で地元の観光地をPRする活動など、地域の人々と連携した提案型の体験学習を実施しました。 地域人材のコーディネーターが事業所などとの連絡・調整役を担い、教員の負担軽減につなげており、平成30年度の全校での実施を目指します。</p> <p>提案型の体験学習を実施する小・中学校 28校</p> <p>全ての県立学校において、選挙管理委員会と連携した出前講座や模擬選挙、国・地域の課題をテーマとした討論などの実践的な学習を実施しました。 教員については、討論型の授業方法などの研修を年2回実施し、147名の教員が受講しました。</p> <p>新たに各学校の生徒会が中心となって地域のボランティア情報を収集し、昨年度の3倍以上となる21,875人の高校生が地域貢献活動に参加しました。</p>
<p>○高校の学力向上</p> <p>・新たに県独自テストを実施するとともに、数学や理科の授業内容を整理し、授業において大学入試問題の実践的な演習を始める時期を早めるとともに、授業後などにおける個別指導を強化します。</p> <p>・選択問題および外部検定試験を活用した英語スピーキング・テスト導入など、高校入試制度の見直しについて方針を決定します。</p> <p>・福井県大学進学サポートセンターを設置し、高校を卒業した生徒に対する学習指導や進学相談を行い、大学進学を支援します。</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>高校生を対象に到達度確認テストを4回実施しました。早い時期から入試問題を解くことにより、生徒の課題発見と大学入試への意識の向上に活用しています。 また、数学や理科の授業進度を速め、大学入試問題の実践的な演習を増やしました。また、夏季休業中から大学別の入試対策指導を始めるなど生徒への個別指導を強化しました。</p> <p>知識の活用や情報の分析を評価する記述・論述型の問題の拡充、高校ごとの選択問題の導入、外部検定を活用した英語スピーキング力の評価など県立高校入試制度の見直しについて10月に方針を決定しました。平成30年度県立高校入学者選抜から実施することとしています。</p> <p>4月に福井県大学進学サポートセンターを設置し、高校を卒業した生徒77名が登録しました。英語や数学などの講師を配置し、毎日の学習会を行うとともに、講師による進学相談を実施して大学への進学を支援しました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>○教員の授業力・指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立高校の教員と教育研究所が連携して新たに県独自テストを作成・実施し、結果の分析を踏まえた授業改善を進めます。 ・教育研究所、関係課等による検討会を設置し、双方向型の通信研修の導入や訪問研修の充実、若手教員の育成の強化など研修の見直しを行い、平成29年度からの教員研修に反映させます。 ・高校における進学指導など実績ある退職教員の活躍の場を広げるとともに、若手教員が参加した自主的な研究グループを増やし、授業力の向上を図ります。 (平成27年度 21グループ) <p style="text-align: center;">自主研究グループ 50グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究所の移転に合わせ、「ふくいの教育」に関する情報発信を強化するため、「教育博物館」を整備します。 ・部活動指導のあり方や校務事務の進め方などについて方針を決定し、各学校に徹底するとともに、地域人材の活用による学校業務の効率化を進め、教員の指導力向上につなげます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>80名の教員が到達度確認テストの問題を作成し、テスト結果を分析しました。生徒の弱点や学習指導のポイントを把握し、各学校の定期考査問題の作成や受験指導、教員の授業改善に活用しました。</p> <p>新たな学習指導要領への対応やいじめ・不登校などの重要な課題に対する研修を充実するとともに、効率的な研修となるよう研究所の研修に加え、学校現場での研修、教科ごとの自主研究など研修全体を見直しました。</p> <p>各定期考査前に学習指導を実施するなど、退職教員の活躍の場を広げるとともに、若手教員が参加した自主的な研究グループを50グループ結成し、情報交換や研究実践などを実施しました。</p> <p style="text-align: center;">自主研究グループ 50グループ</p> <p>県民や学校から昔の教科書を約4,600点、教卓や椅子など教具を約300点、冊子資料約70冊を収集するとともに、福井ゆかりの教育者の直筆資料など多くの教育資料を収集しました。4月15日に開館記念行事を予定しています。</p> <p>新たに全教員の毎日の出退勤時刻の調査を始め、校長、教頭による勤務実態の把握を進めました。</p> <p>平日週1回の部活動休養日の設定、教員にかわり単独で指導や引率ができる部活動講師の配置など部活動指導の改善や校務事務の効率化のため各学校共通の校務支援システム導入について準備を進めました。</p> <p>また、新たに地域の人材を小・中学校105校に配置し、教材や実験・実習の準備を支援しました。</p>

(様式1)

項 目	実 施 結 果
<p>○職業高校の新カリキュラム・産業教育プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業系高校の生徒の資格取得、コンクール入賞および企業実習等の成果を得点化し、福井フューチャーマイスターとして認定を始めます。 (平成27年度 一人) <p>福井フューチャーマイスター認定者数 800人</p> <ul style="list-style-type: none"> 若狭東高校において、薬草の産地化や大規模施設園芸に対応できる教育を進めるとともに、福井農林高校、坂井高校において、栽培に加え、加工や流通など経営の学習を行うための施設整備を進めます。 	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>県内の高校3年生1,854名を福井フューチャーマイスターとして初めて認定しました。企業と連携した実務に役立つ資格の取得を支援することにより、生徒の資格取得への意欲が向上し、国家資格等の受験者数が昨年度に比べ約2割増加しました。</p> <p>福井フューチャーマイスター認定者数 1,854人</p> <p>若狭東高校では、薬草の産地化に向けた新商品の開発や薬草の栽培実験を行いました。福井農林高校、坂井高校では、加工や流通、販売に携わる農業人材を育成するため、温室、食品加工室、販売所等の施設整備を進めました。</p>
<p>○児童・生徒はみんな笑顔に</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめへの対応事例の共有と徹底を進め、いじめの未然防止、調査の充実による早期発見、「サポート班」の組織的な対応による早期解消などいじめ対策を進めます。 (平成27年度 95.5%) <p>いじめの年度内解消率 96%</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校の生徒の職場実習や職業教育に協力する「就労サポーター企業」制度の新設や学校ジョブコーチによる実習支援などにより、特別支援学校生徒の一般就労率を高めます。 (平成27年度 32.9%) <p>特別支援学校生徒の一般就労率 33.5%</p> <ul style="list-style-type: none"> 小・中学生と特別支援学校の児童・生徒と一緒に学ぶ交流および共同学習について、特別支援コーディネーターによる事例紹介や研修会により教員の障害理解を進め、拡大していきます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>全小・中学校において、月1回以上の「いじめ対策委員会」を開催し、いじめの未然防止等に努めるとともに、新たに校長を対象として、事例に基づく実践的な研修を実施しました。いじめが起きた場合には、専門家を加えた「いじめ対応サポート班」を組織し、早期解消を図りました。また、いじめの早期発見に保護者の協力を得るため、「STOP! いじめ」のリーフレットを作成し啓発を行いました。</p> <p>いじめの年度内解消率 97%</p> <p>実習受け入れや技術指導に協力する就労サポーター企業制度を新たに設け、101社が登録しました。また、学校ジョブコーチが昨年度の37名を上回る45名の企業実習等を支援し、一般就労率を高めました。</p> <p>特別支援学校生徒の一般就労率 40.5%</p> <p>新たにコーディネーターが小・中学校の教員を対象とした障害理解の研修を35校において実施し、昨年度を39校上回る165小・中学校が特別支援学校との交流学习を実施しました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>◇学校の再編・統合 ○県立高校の次なる再編に道筋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹南地区・二州地区の県立高校再編を進めるため、地元関係者等から就職状況や人材育成の方向性について情報を収集し、年度内を目途に両地区に再編検討委員会を設置します。 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <hr/> <p>県立高校の再編については、生徒の減少時期が早く、他地区への生徒の進学も多い丹南地区から議論を始めることとしました。</p> <p>各地区の中学生の進学状況や高校卒業後の進学・就職の状況をもとに関係者と協議を行いながら、地区別懇談会の開催を検討しています。</p>
<p>3 先進的な医療と福祉、健康長寿のふるさと貢献</p> <p>◇ 県民の健康サポート・システム【部局連携】</p> <p>○子どもの目と歯・生活の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校において、目を休める時間を設けるとともに、目の動きをスムーズにする運動を実施し、近視予防につなげます。 ・歯科医師会の協力の下、全小学校において「正しい歯みがき教室」を開催するとともに、全ての1年生、4年生に対する歯の二次検診を実施し、正しい歯みがきの定着とむし歯治療を促進し、むし歯のない小学生を増やします。(平成27年度 68.4%) <p style="text-align: center;">むし歯のない小学生の割合 70%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校に加え、新たに中学校の全生徒に対し、歯垢染色剤を活用した歯みがき指導を実施し、歯みがき習慣の定着を図ります。 ・スマートフォン依存の実態を理解し、依存からの脱却や活用について話し合う「脱スマホ高校生サミット」を開催するとともに、全中学校において生徒の自主的なルールづくりを進め、インターネットの適正利用を推進します。(平成27年度 79.7%) <p style="text-align: center;">中学校における自主的なルール作成 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに正しい生活習慣を身に付けさせるため、新たにPTAと連携した研修を始め、家庭の教育力を高めます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました</p> <hr/> <p>全小・中学校において、目を休める「リフレッシュタイム」と目の動きをスムーズにする「ビジョントレーニング」を実施しました。また、ビジョントレーニングについては、運動部活動での普及も進めました。</p> <p>全小学校において、1～4年生を対象に歯垢染色剤を用いた歯みがき教室を開催しました。また、小学校1年生と4年生に対し、口型模型を活用した正しい歯みがきの定着や歯科二次健診によるむし歯治療の勧奨を図り、児童の歯科治療率が向上するとともに、むし歯のない小学生が増えました。</p> <p style="text-align: center;">むし歯のない小学生の割合 70%</p> <p>新たに、全中学校において、6月の歯と口の健康週間および11月のいい歯の日を中心に、養護教諭等による歯垢染色剤を用いた歯みがき指導を実施しました。</p> <p>昨年度策定した「ふくいスマートルール」をもとに、小・中学校において、児童生徒がゲームやインターネットの適正利用に関するルールの徹底・作成を進めました。</p> <p>高校生が意見交換する「ふくい高校生スマートサミット」において、共同宣言を採択し、統一したインターネットの適正利用を進めるとともに、子どもの生活習慣の重要性について、保護者の理解促進に努めました。</p> <p style="text-align: center;">中学校における自主的なルール作成 100%</p> <p>新たに、子どもの読書の重要性や食生活、生活習慣等をテーマとしたPTA地区別研修会を県内5地区で開催し、小・中学生の保護者945人が参加しました</p> <p>また、望ましい生活リズム、家庭内読書・お手伝いの推進などの資料を作成し、保護者会等において普及しました。</p>

(様式1)

項 目	実 施 結 果
<p>4 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ</p> <p>◇「ふくい食ブランド」を地産・外商【部局連携】</p> <p>○日本で一番おいしい学校給食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに作成した食育教材を活用し、小・中学校における食育の授業を増やし、地域の食べ物や食事、朝食の大切さなどについて理解を深めます。 ・栄養教諭がプロの料理人等の協力を得て、地場産食材を使ったおいしいメニューを開発し、調理従事員の研修を行い、学校給食において提供します。 ・学校給食調理コンテストを開催して、児童・生徒の食への関心を高めるとともに、学校給食甲子園等の全国大会において上位入賞を目指すことにより、本県給食のレベルアップを図ります。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>食育については、県独自の食育教材を活用した食育の授業を1クラス当たり年3回から5回に増やし、児童・生徒が食の大切さを学びました。また、望ましい食習慣など、保護者に対しても食育の重要性を普及しました。</p> <p>学校給食については、地域の食材を活用して新たに開発した給食献立を、月1回程度に倍増して提供しました。 また、学校給食施設と生産者・市場との連携を強化して、地場産食材の利用を進めるとともに、地場産100%和食給食を昨年度の年1回から2回に増やしました。 (地場産食材利用率 H27:43.5% → H28:44.9%)</p> <p>県内36校54チームの児童・生徒が学校給食調理コンテストに参加し、地域の食材や食文化への理解を深めました。また、全国地産地消学校給食等メニューコンテスト(農林水産省)において、高浜町学校給食センターが食糧産業局長賞を受賞しました。</p>
<p>5 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略</p> <p>◇観光フロンティア・福井【部局連携】</p> <p>○観光人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業系高校の観光授業において、地域の観光資源を発見するフィールドワークを行い、高校生の視点から魅力ある観光プランを発信します。 ・旅行者等の外部専門家による授業を拡充し、観光に関する興味・関心を高め、地理検定などの取得を支援します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <hr/> <p>商業系高校全6校で観光に関する科目において、地域の魅力を発信するための授業を実施しました。 観光プランの実践やイベントへの参加など33回のフィールドワークを実施し、研究成果をもとに観光情報紙やPR動画、ポスターを作成しました。また、奥越明成高校が昨年引き続き全国大会において銀賞を獲得するなど、全国的な発信に努めました。</p> <p>観光プランの評価、調査結果検証のため、外部講師による授業を28回実施するとともに、観光に関わる情報、マーケティングの資格の取得や地域検定等の受検を促進し、生徒の興味・関心を高めました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>6 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に</p> <p>◇県民総参加の福井国体【部局連携】</p> <p>○競技力を高め「優勝」の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年の岩手国体で10位台前半の成績を達成するため、オリンピック出場経験のある指導者などから直接指導を受ける機会を増やすとともに、強豪チームとの練習会を充実します。 (平成27年度 26位) <p style="text-align: center;">岩手国体総合成績 10位台前半</p> <ul style="list-style-type: none"> 「スポジョブふくい」等により日本代表級を含めた有力な選手確保を進めます。さらに、実業団等の一線で活躍している本県出身選手に福井国体に選手として出場してもらえよう交渉を進めます。 (平成27年度 累計110人) <p style="text-align: center;">有力選手確保数 累計170人</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井国体において、少年種別の中心となる高校1年生の選抜チームを編成し、県外遠征やケアトレーナーの活用などによる強化を進めます。 	<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>オリンピック選手などを育てた実績のあるスーパーアドバイザーの派遣を60名から76名に増やし、671回の実践指導を行うとともに、県外強豪チームとの練習会を充実し、選手の強化に努めましたが、岩手国体では天皇杯18位と、目標の10位台前半には及びませんでした。</p> <p style="text-align: center;">岩手国体総合成績 18位</p> <p>「スポジョブふくい」により、70名の有力選手を確保するとともに、実業団等の一線で活躍している本県出身のふるさと選手150名から福井国体出場の確約を取りました。 ふるさと選手との連携を高めるための合同練習や強豪チームとの対戦を増やし、さらに競技力を高めるための支援を実施しています。</p> <p style="text-align: center;">有力選手確保数 70人増 累計 180人</p> <p>少年種別の中心となる高校1年生の選抜チームを33競技において編成し、県外遠征や強化合宿を413回(県外遠征194回、強化合宿219回)実施しました。また、スポーツケアトレーナーを11競技に延べ191回派遣し、ケガの予防やメンタル面の強化を指導しました。</p>

(様式1)

項 目	実 施 結 果
<p>◇「スポーツ福井」の実現 ○子どもから大人まで気軽にスポーツ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国体デモンストレーションスポーツなど気軽に参加できるスポーツイベントを全市町において開催するとともに、冬季に屋内スポーツ体験会を開催します。 (平成27年度 17市町計25回) <p>市町によるスポーツイベント開催数 17市町計29回</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県民スポーツ祭において、春と冬に県民が気軽に参加できる「スポーツ体験フェスタ」を開催するとともに、各種競技に約46,000人が参加しました。 また、全市町にスポーツイベントの開催を要請し、あわせて国体デモンストレーションスポーツの体験会等を実施しました。</p> <p>市町によるスポーツイベント開催数 17市町計29回</p>
<p>◇福井の文化をもっと身近に 【部局連携】 ○文学館の新展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県出身の作家や、福井を舞台にした歴史小説をテーマにした企画展を開催するとともに、直木賞作家等による講演会等を切れ目なく開催し、県民の文学への関心を高めます。 ・著名作家や編集者が指導する「ふくい文学ゼミ」を引き続き開催するとともに、ゼミ修了者による文芸サークルを結成し全国規模の文芸賞に応募するなど、県民の文芸創作活動の輪を広げます。 (平成27年度 累計28人) <p>文学ゼミ修了者数 累計48人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>本県出身の中野重治などをテーマとした企画展、吉村昭氏や司馬遼太郎氏など福井を舞台にした歴史小説を描いた作家を取り上げる企画展などを開催するとともに、藤田宜永氏や黒川博行氏など直木賞作家による講演会を開催しました。 また、有明夏夫氏の自筆原稿や愛用品等の寄贈を受けるなど、展示資料の充実を図りました。</p> <p>第二期となる「ふくい文学ゼミ」は高校生8人を含む20人が受講しました。また、「ふくい文学ゼミ」修了生によるサークルを結成し、継続的に研修会を開催するとともに、新潮ミステリー大賞など文学賞へ作品を応募しました。</p> <p>文学館ゼミ修了者数 20人増 累計48人</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>○子どもの芸術・文化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 弦楽クラブを設置する学校へのプロ奏者による技術指導を充実させ、複数地区の児童・生徒による合同練習会や合同演奏会を増やすなど、小中高校における弦楽奏者を育成します。 (平成27年度 155人) <p style="text-align: right;">弦楽クラブ等参加者数 170人</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校で墨と越前和紙を活用した授業、中学校・高校で越前和紙と日本顔料等を活用した授業を実施し、高校を中心に研究推進校を拡充します。 (平成27年度 35校) <p style="text-align: right;">日本画授業 研究推進校 37校</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>弦楽クラブ設置校を1校増やし、13校において弦楽活動を推進しました。一流の演奏家による研修会、合同練習会や発表の機会を増やし、演奏技術の向上を図りました。小中高校における弦楽クラブ参加者は16人増え、合計171人を育成しました。</p> <p style="text-align: right;">弦楽クラブ等参加者数 16人増 171人</p> <p>全ての小中高校において、日本画の授業を実施し、越前和紙や日本画絵の具の特徴を生かした作品を制作しました。また、東京藝術大学と連携を強化し、大学院生による中高生への日本画指導や高校での出前授業を実施しました。</p> <p style="text-align: right;">日本画授業 研究推進校 37校</p>
<p>○「こども歴史文化館」の充実と入館者アップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井の先人と教科書に書かれた通史との関係をわかりやすく解説する資料を充実し、学校等の団体利用を促進するとともに、福井の歴史・文化に関する出前講座を積極的に行います。 (平成27年度 54,291人) <p style="text-align: right;">こども歴史文化館来館者数 55,000人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>特別展において、由利公正や岩佐又兵衛などを紹介するとともに、五箇条の御誓文や浮世絵など歴史教科書に紹介されている資料を実物で展示し、福井の先人や日本の歴史を身近に感じられるよう紹介しました。</p> <p>団体利用ガイドの作成、百人一首や浮世絵など伝統文化を学ぶワークショップの開催など、学校の団体利用の促進を図り、昨年度を約300人上回る70団体2,409人の利用がありました。</p> <p>福井の文明開化や浮世絵などの文化に関する出前講座についても、昨年度の約2倍となる13校5,530人の小学生を対象に実施しました。</p> <p style="text-align: right;">こども歴史文化館の来館者数 55,187人</p>

項目	実施結果
<p>◇福井が誇る歴史遺産の発信 【部局連携】</p> <p>○国宝・重文の指定迅速化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建造物、祭り、古文書などの文化財の指定を推進し、観光やまちづくりにおける活用につなげます。 (平成27年度 11件) <p style="text-align: center;">文化財指定件数 累計23件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丸岡城の国宝指定を目指し、坂井市が行う建築年代の特定や構造的特徴を明らかにするための調査等を支援します。 ・地域の代表的な伝統的建造物を調査し、建造物群の文化財の登録を推進します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>国指定では、県内の銀行建造物として初めて「旧大和田銀行本店」(敦賀市)が重要文化財(建造物)に指定されました。さらに、「おくのほそ道の風景地一けいの明神(気比神宮境内)一」(敦賀市)が名勝に、「若狭武田氏館跡」(小浜市)が史跡に、「勝山恐竜化石群及びその産地」(勝山市)が天然記念物として、合わせて4件が国に文化財指定されました。</p> <p>このほか、国選択無形民俗文化財に若狭能倉座の神事が選択されました。</p> <p>県指定では、「雄島海女の素潜り漁と加工技術」(坂井市)や「白山神社本殿および拝殿」(越前市)など、新たに10件の文化財を指定しました。</p> <p style="text-align: center;">文化財指定件数 14件増 累計25件</p> <p>丸岡城天守の建築部材等について放射性炭素による年代測定調査を実施するとともに、初代城主柴田勝豊に関連する資料の調査や大工加工痕調査、城門などの移築遺構調査を実施しました。</p> <p>今庄宿の重要的伝統的建造物群保存地区の選定に向け、国や町と協議を行うとともに、基礎調査を実施しました。</p> <p>また、地域のシンボルとなる建造物の調査を行い、国登録有形文化財として丹巖洞草庵や立石岬灯台など12件の登録につなげました。</p>

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
or 目標を達成しました。(さらに強化します)(例:数値目標を達成したが、課題が残るもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要があるもの)